Money Forward Admina

ゼロから始める情シス内製化マニュアル

はじめに

「情シス体制を構築したいけれど、どこから始めればいいかわからない」「情シスがないことで、どんなリスクがあるの?」
このようなお悩みをお持ちの方は多いのではないでしょうか。

情報システム部門(情シス)は、企業のIT環境を整備し、業務効率化やセキュリティ確保のために必要な存在です。
しかし、経験・知見がない状態でゼロから情シス体制を構築することは、多くの企業にとってハードルが高く、大きな挑戦となります。

本資料では、情シス部門の定義や情シスがないことで生じる4つのリスク、体制構築のために必要なステップを5段階に分け、詳しく解説いたします。また、自社導入とアウトソーシングの比較や、アウトソーシング活用のメリットについてもご紹介します。

情シス部門の立ち上げにお悩みの方、ぜひ、ご参考ください。

P2　「情シス」とは

P7　情シス体制構築のための5つのステップ

P14　「情シス」の内製化とは

P20　「情シス」のアウトソーシング

P24　アウトソーシングサービス
『Admina Digital Workforce』とは

P32　会社概要

P34　お問い合わせ

「情シス」とは

「情シス」の定義

情シス（部門）は、企業にとって効率的な業務遂行と情報セキュリティの確保に不可欠な部門です

「情シス」とは

「情シス」は情報システム部門の略で、企業が使用する**ネットワークやルーター、パソコンなどのIT機器、業務システムを構築・運用する部門**です。

特に最近では、**業務システムの構築運用の問題が注目**されています。

業務効率を上げるためのメールやグループウェア、営業支援や顧客管理システムなどが具体的な例です。これらのシステムを社内で計画、構築、運用するのが情シスの主な仕事です。

「情シス」部門の主な役割

1. 社内システムの開発と管理
2. IT機器の運用と管理
3. ヘルプデスク業務
4. セキュリティ対策

「情シス」がいないことで起きる４つのリスク

リスク１　機密情報の漏洩

セキュリティ体制が弱いと、社内外で多くの危険が生じます。
社内では従業員が重要情報を持ち出したり、自己判断でソフトをインストールすることでリスクが増します。
不十分な対策では**ランサムウェア攻撃**も受けやすくなります。**社外では顧客情報の漏洩やクライアントの信用を失うリスク**があります。

リスク２　トラブル発生時の対応遅れ

ITトラブルへの対応が遅れることで、社員の業務負担が増大します。
IT専門の対応者がいないため、トラブル発生時に迅速かつ効果的な解決が困難になるためです。
また、対応が遅れる事で**顧客の信頼を失う事にも繋がります。**

リスク３　インフラ障害による業務停止

ネットワークやサーバーのトラブルが発生した際、迅速な解決が必要となります。例えば、店舗運営ではネットワークが切れると注文や会計がすべて止まる危険があります。
インフラ関連の問題は簡単に解決できないことが多いため、**専門家の配置が必要**です。

リスク４　担当者依存による業務停止

IT担当者が単独または兼務の場合、その人が離職や健康問題で業務を離れると**運営に大きな支障が出る可能性**があります。
情報が一部の人に依存しているため、代替が難しく、**ひとり情シスの担当者が長期休暇を取れない問題**も生じます。

どのような会社が情シス体制を作らなければいけないか？

情シスがいないことで起こりうるリスクを避けるため、以下４つのいずれかの状況にある会社は
兼任による対応やひとり情シス対応ではなく、情シス部門体制を作ることが必要です

1　従業員数が30名以上※

- **ヘルプデスクの機会が増える**
- **端末やアカウント管理が煩雑になる**
- **管理ができていないことが原因で無駄なコストが発生**

従業員数が増えると使用端末が増え、ITサポートの需要も増加。トラブル対応やシステム管理に専任担当者が必要となります。

2　個人情報を取り扱う会社

- **セキュリティ対策不足が原因で個人情報流失の恐れ**
- **企業としての信頼を失い売上低下に直結**

顧客や従業員の個人情報を扱う場合、セキュリティ対策は必須となります。専門の情シス部門があれば、情報漏洩を防ぐための厳格な情報管理が可能となります。

※人数が30名以上という前提ですが、より実態に近い考え方としては、パソコンの台数を指します。従業員数が多くても、PCやタブレットなどの端末が少ない場合は、情シス業務が発生しないため

どのような会社が情シス体制を作らなければいけないか？

情シスがいないことで起こりうるリスクを避けるため、以下４つのいずれかの状況にある会社は
兼任による対応やひとり情シス対応ではなく、情シス部門体制を作ることが必要です

3　IT障害が顧客にダイレクトに影響

・ネットワークやサーバーがトラブルになると**決済端末やオーダーシステムが使えなくなり営業が止まる可能性**

・**特に一般消費者を対象とするBtoC**ビジネスモデルの企業は**当てはまる可能性が高い**

飲食店など、ITシステムの障害が直接顧客サービスに影響する場合は、迅速な対応が求められます。情シス部門があれば、トラブル発生時に即時対応が可能です。

4　上場準備中

・上場を目指す企業は**内部統制が整備されていないと上場できない**ため、理解を深めることが不可欠

・**IT統制や内部統制を対応するにはITに強い人材が必要**

上場を目指す会社は、ITガバナンスやセキュリティ管理が厳しく求められます。情シス部門を整備することで、内部統制を強化し、投資家の信頼を得ることができます。

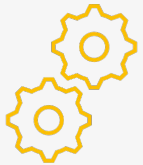
情シス体制構築のための
５つのステップ

情シス体制構築のための５つのステップ

情シス体制および情報システムを導入する際の一般的な流れは、企業の目的や必要とするシステムにより異なります。ここでは、体制構築のための一般的な流れを５つのステップごとに詳しく解説します

情シス体制導入のすすめ方

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5
課題と目的の明確化	情報システム要件の決定	ベンダー選定とプロジェクト管理	システム開発・導入	運用と継続的な改善



【Step 1】課題と目的の明確化

情シス体制構築には、自社の課題を洗い出し、達成したい目的を明確にすることが重要です

目的が曖昧なまま情報システムの導入を始めると、期待した効果が得られない恐れがあります。

課題と目的を整理することで、自社にとって最適な情報システムの選択が可能となります。

（例）

部署	課題	目的
人事・労務	人事評価や勤怠管理にエクセルを使用しているため、作業が非効率で情報共有にも時間がかかる IT関連の問い合わせ対応や新入社員のPC準備、全社員のアカウント管理などを兼任しておりコア業務に集中できない	業務の自動化による効率化・リアルタイムな情報共有による意思決定の迅速化 専任情シス担当者の配置かアウトソーシングの活用でマニュアルや外部ツールを導入し、本業に集中できる環境をつくる
営業	顧客情報が部署ごとに分散管理されているため、顧客対応に一貫性がなく、営業機会のロスにつながっている	顧客情報の一元管理によるサービス品質の向上・部署間の連携強化による売上拡大
販売 在庫管理	在庫管理システムが使いづらく、在庫の可視化が難しい。過剰在庫や欠品が頻発している	顧客情報の一元管理によるサービス品質の向上・部署間の連携強化による売上拡大

【Step 2】情報システム要件の決定

次に、情報システムの要件を具体化します

現場の意見を積極的に取り入れながら、以下の流れで必要な機能を洗い出していきます。

現状の業務フローを可視化 ▶ 問題点を特定 ▶ 問題点から逆算しシステムに必要な機能を明確にする

ここで決定した情報システムの要件はベンダー選定やシステム開発の基礎となるため、
自社の課題解決と目的達成に直結する要件を過不足なく定義できるよう慎重に進めましょう。

【Step 3】ベンダー選定とプロジェクト管理

情報システムを導入する際は、自社に適した開発方式とベンダーを選定します

最適な開発方式とベンダーを選び、プロジェクトを適切に管理することで、情報システムの導入を成功に導くことができます。

開発方式の選定

1. スクラッチ・パッケージ開発、SaaSを比較検討
2. メリット・デメリットを考慮
3. 自社の要件に最適な方式を選択

ベンダー評価と選定

1. 複数のベンダーから提案を受ける
2. 開発実績やサポート体制を評価
3. 自社との相性が良いベンダーを選ぶ

【Step 4】システム開発・導入

要件定義が確定したらシステム設計とプログラミングを開始します

開発中に生じる課題にも柔軟に対応し、現行システムから新システムへ慎重にデータ移行することで、円滑な導入と効果的な活用を実現します。

進捗確認と調整対応

1. 定期的に開発の進捗を確認
2. 必要に応じて要件を調整
3. 柔軟性のある使いやすいシステムを構築

導入

1. データ移行の計画と実行
2. 新システム運用ルールや手順を整備
3. 関係者への周知

【Step 5】運用と継続的な改善

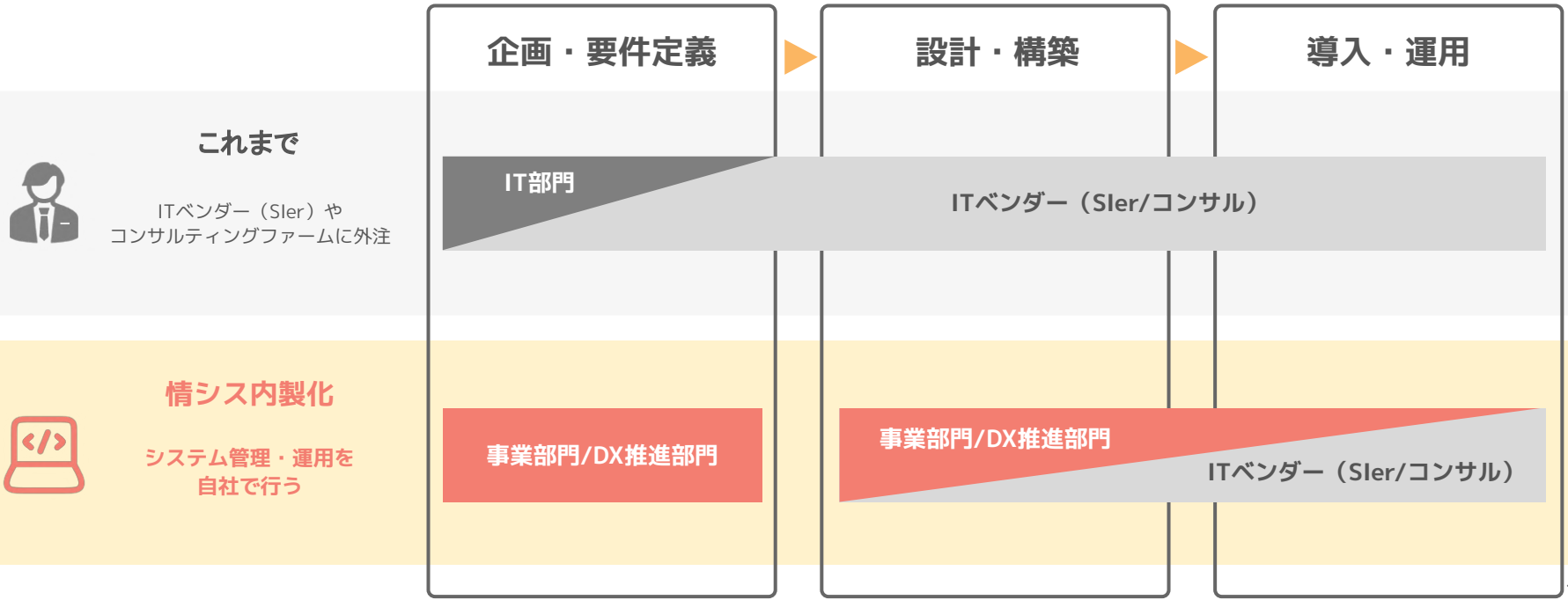
システム導入後は運用体制を整え、ユーザーの声を反映しながら継続的な改善を行います

運用・保守フェーズの重要性	安定稼働を支える運用・保守体制の整備が不可欠 ※特に稼働初期は、不具合対応におけるスピードが重要
継続的な改善ポイント	・ユーザーからのフィードバックを定期的に収集・反映 ・業務プロセスの変化に合わせて運用ルールや機能を見直す ・最新技術の活用により、さらなる業務効率化を目指す ・システムの拡張、統合、セキュリティ強化も中長期で計画的に対応

「情シス」の内製化とは

「情シス」の内製化とは？

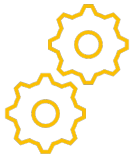
「情シスの内製化ができている状態」とは、自社で使用しているSaaS等のアカウント管理や自社内の
ITセキュリティ対策といった社内の情報システムの管理・対策を、ITベンダー（SIer）や
コンサルティングファームにアウトソースせずに、自社内で行えている状態のことを指します



「情シス」内製化のメリット

メリット 1

柔軟に素早く対応できる



現場からの要求に応じて
迅速かつ柔軟な対応が可能

・緊急の問題にも即座に取り組める
・外部ベンダーとの調整時間が不要になり、開発・改善のスピードが向上

メリット 2

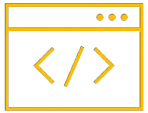
生産性課題の把握

社内業務に精通していることで提供する
自社のIT課題や生産性課題を把握しやすく、業務ナレッジも蓄積される

・自社IT課題の把握
・業務プロセスに関する深い理解

メリット 3

追加要望への対応



機能追加やアイデアが出た際、
システムの中身がわかるため
対応可否の判断ができる

・自社要望に沿ったカスタマイズ
・市場の変化や現場の状況に応じた迅速な改修
・新しい技術やツールの積極的な導入

「情シス」内製化のデメリット

デメリット 1

情シス人材の確保・育成の困難さと管理体制維持

IT人材、特に情シス人材は市場に少なく、必要な人材を確保・維持することは大きな課題です。

・専門的な知識やスキルを持つIT人材の採用が難しい
・技術の進歩が速いため、継続的な教育・研修が必要
・優秀なIT人材の流出リスクがある

デメリット 2

技術・品質が保てない可能性

外部ベンダーと比べ、スキル・品質ともに不足する可能性があります。特に内製化の初期段階では、ベンダーに比べて技術力や品質面で劣る可能性が高いことが多くみられます。

・ベンダーと比較して、実績や専門性が不足する可能性
・品質を担保するための指標やテスト体制の構築が必要
・最新技術やセキュリティ対策への対応が遅れる可能性

「情シス」内製化を推進する際の課題

情シス内製化に潜むボトルネック

- ナレッジ
  - プロジェクト推進に関する
    知見やノウハウが溜まっていない
- 人的リソース
  - DXを推進したいが
    内部リソースだけでは十分ではない
- 管理体制
  - IT管理環境・プロセスの
    最適化ができていない

「情シス」内製化についてまとめ

情シスの内製化は、DXを推進する上で重要な戦略の一つとなっています。
内製化すると、新型コロナウイルスに代表される予測不能な外的要因の発生時にも、自社の人材で柔軟かつ迅速に対応できる体制を持つことは、大きな強みとなります。

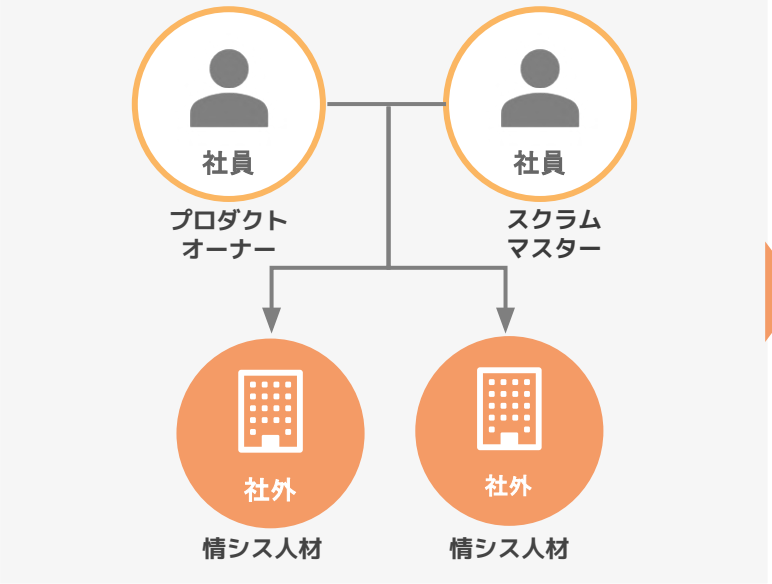
一方で、**内製化の実現には人材確保や育成、初期投資といった課題もあるため、自社のリソース状況や将来のIT戦略を踏まえ、慎重に検討を行うことが求められます。**

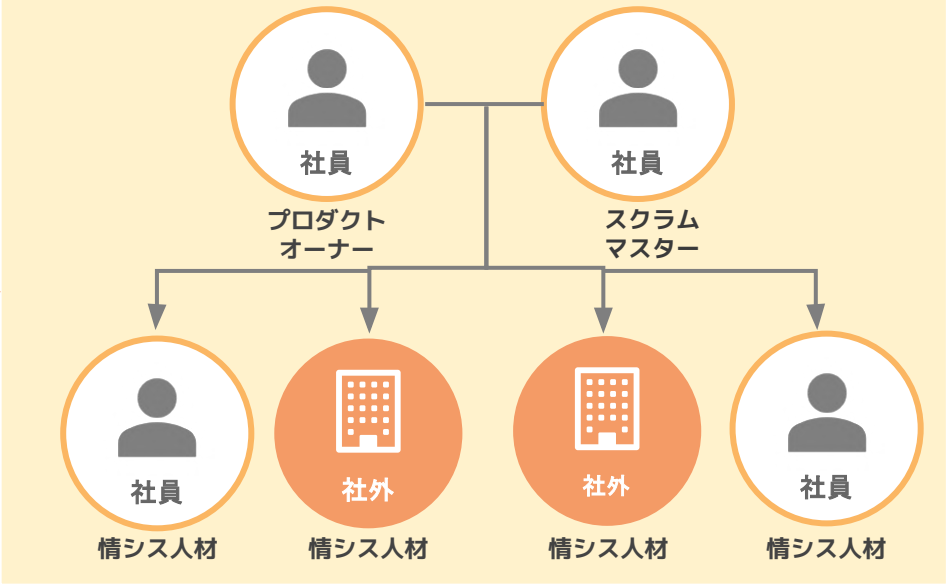
「情シス」のアウトソーシング

情シス内製化に向けたアウトソーシング活用のご提案

情シス体制の内製化の推進には、段階的なアプローチが現実的です。
人材確保や育成には時間と労力がかかるため、
まずは外部リソースも活用しながら、柔軟に体制構築を進めることが推奨されます。

外注活用しつつ、段階的に内製化チームを大きくしていく





情シスの自社導入とアウトソーシングの比較

情シス体制および情報システムを導入する際の流れは、企業の目的や必要とするシステムにより異なります。
ここでは、体制構築のための一般的な流れを５つのステップごとに解説します。

	自社導入の場合	アウトソーシングの場合
メリット	■システムの内部構造を理解し、**自社の要件に合わせて柔軟な運用**ができる ■機密情報を社内で管理でき、**セキュリティ面でも安心**	■**専門知識を持ったエキスパート**に業務を任せられる ■人材確保の手間がなく、**採用・育成コストを抑えられる** ■要件定義やプロジェクト管理を任せられるので**社内負担が軽減** ■ベンダーの豊富な知見を活かした**アドバイスを得られる**
デメリット	■ITに精通した人材の確保と育成に**時間とコストがかかる** ■専門知識が必要不可欠なため、**社内に適切な人材がいない場合は、プロジェクトが進まない恐れ**	■ベンダーがシステムの情報・ドキュメントを適切に共有してくれない場合、**自社での保守・運用が難しくなる** ■ベンダーとのコミュニケーションが重要となるため、密に連携を取る必要がある

アウトソーシングのメリット

内製化をスムーズに進め、属人化を防ぐための方法として、アウトソーシングの活用が有効です。

アウトソーシング活用で

1. プロフェッショナルな人材を安定的に確保できる
2. 情シス担当者の負担を軽減できる
3. 人材の採用と育成コストを抑えられる
4. ITに関する幅広い相談ができる
5. 業務を大幅に効率化できる
6. 属人化を解消できる

アウトソーシングサービス
Admina Digital Workforceとは

Admina Digital Workforceの特徴

デジタルとエキスパートの協働により
幅広い情シス課題の解決を実現

デジタル

Admina

Admina AI

＋

エキスパート(人材)

IT分野のエキスパート

IT顧問 情シス君

会社のあらゆるIT化、デジタル活動を
促進するためのIT支援サービス

Admina Digital Workforceの特徴

業務スキルと稼働時間を柔軟にカスタマイズすることで ニーズに合わせた適切なITサポートを提供

1

幅広い
サービス提供範囲

SaaS/デバイス管理・運用業務を中心に
環境改善から業務代行まで対応可能
情シス業務を幅広く支援可能

2

貴社に合わせた
柔軟なカスタマイズ

ニーズに合わせて稼働時間や
業務スタイルを選択可能。
タイミングに応じて、**必要最低限**
かつ効率的にサポートを提供する

3

業務レベルに応じた
最適価格で支援

IT戦略設計を得意とするシニアコンサル
タントから、低単価で定型業務対応が
可能な専門コンサルタントまで
業務レベルに応じた人材アサインで
最適価格でご支援

ご支援方法ー体制

時間・場所・勤務形態問わずご支援が可能

対応方法	常駐対応	対応時間帯	稼働時間	稼働場所	言語
オンライン対応	常駐	平日日中稼働	稼働時間確保	47都道府県 現場対応	日本語
オフライン対応	部分常駐	休日稼働	フレキシブル 対応		英語
	非常駐	夜間稼働	稼働量に応じた 計算		中国語

Admina Digital Workforceのプラン

課題に合わせた支援プランをご提供

※貴社課題に合わせたカスタマイズも可能となります。

① 情シス不在の企業向け

情シス立ち上げプラン

② 上場準備企業向け

IT統制プラン

③ アカウント管理に課題

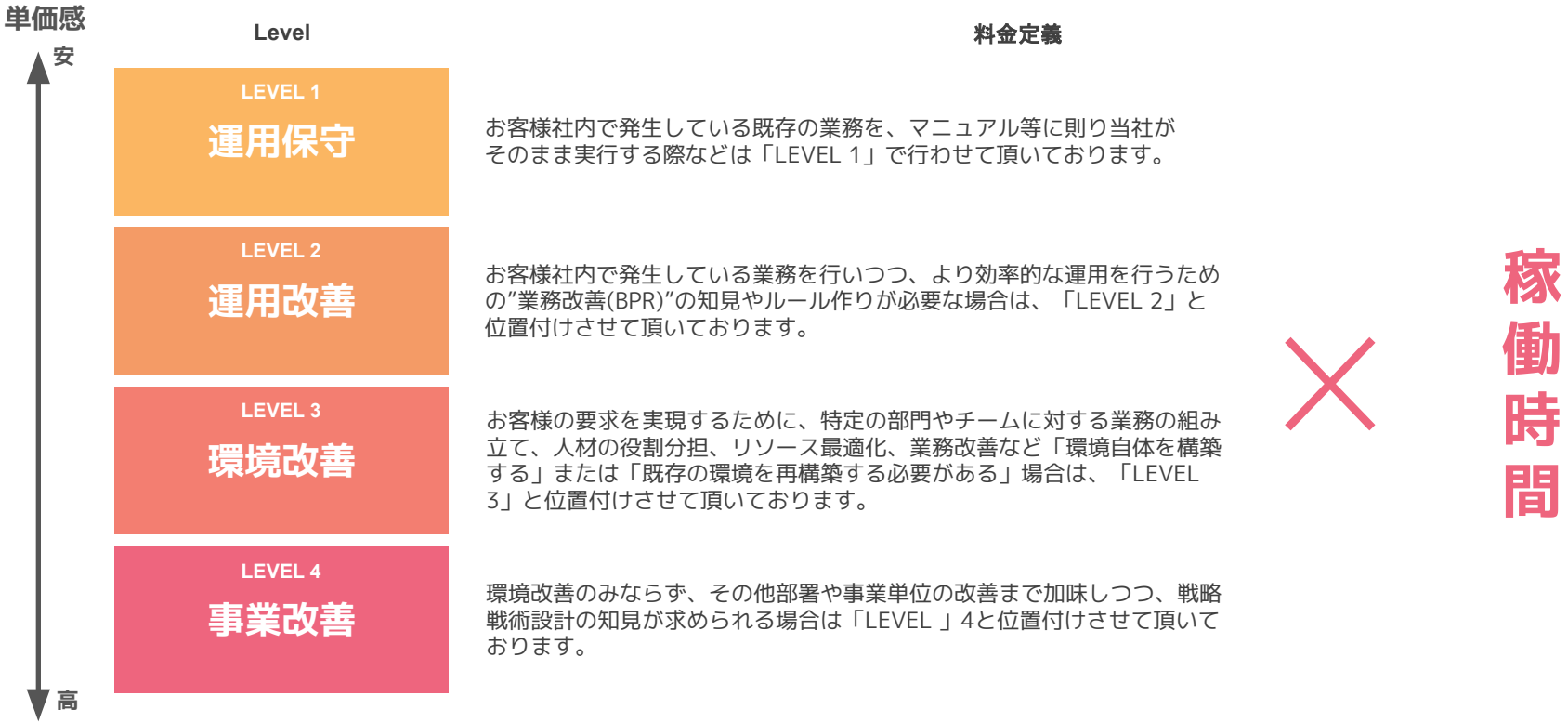
アカウント管理まるなげプラン

④ シャドーITに課題

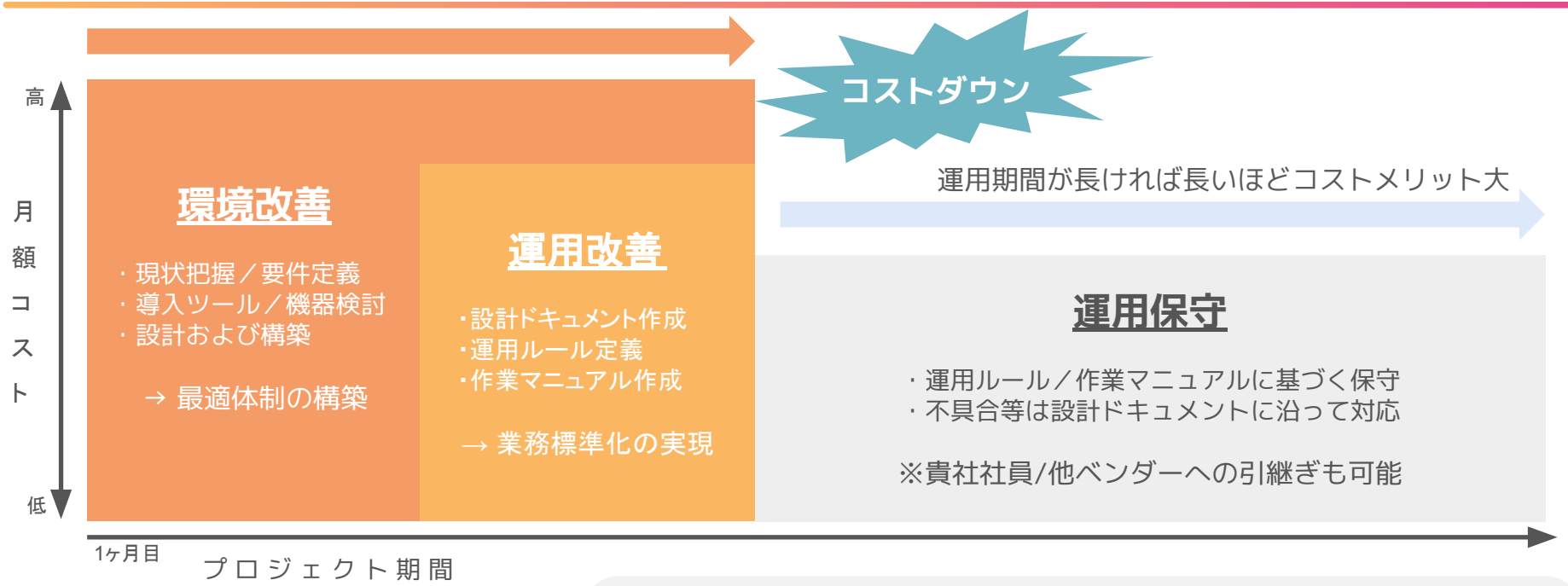
SaaSガバナンス徹底プラン

業務レベルに応じた料金システム

タイミング・課題に合わせて、必要なプランを柔軟にご提案



中長期的な運用を見据えた環境改善/運用改善サポート



環境改善と並行して
運用改善(=業務標準化)を行うことで

- ✔ 業務が属人化せず、運用体制を維持しやすい（組織資産になる）
- ✔ 業務難易度が下がるため、運用コストを削減できる（内製も可能）
- ✔ 運用の人材要件も下がるため、情シス人員を採用しやすくなる

ご支援の流れ

調査分析/課題整理から施策実行およびスポットでのプロジェクトまで、課題に注力した支援を行います

タスク例

STEP1 調査・要求定義工程

現環境や状況を整理し、課題の抽出と解決案の提案を行います

- 現状の整理
- システム状況の確認
- 課題の抽出
- 解決案の立案

etc.

STEP2 設計工程

優先度に沿ってプロジェクト化しスケジュール・要件を定義します

- 要件定義書の作成
- スケジュールの立案
- 技術選定
- プロジェクト優先度の策定

etc.

STEP3 導入工程

導入に向け具体的なアクションプランに落とし込みます

- 導入マニュアル作成
- カスタマイズ開発
- 導入研修実施
- 導入支援実施

etc.

STEP4 運用工程

スケジュール設計やタスク管理をサポートしながら情報シス業務を支援します

- ヘルプデスク対応
- ドキュメント類整備
- IT業務のコンサルティング
- 効果検証、KPIの確認

etc.

プロジェクトマネジメント

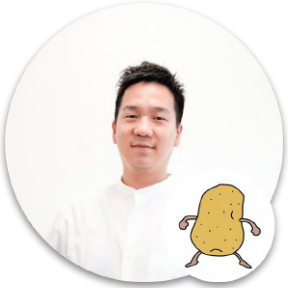
会社紹介

会社名	マネーフォワード i 株式会社
代表	今井 義人
創立年月	2021年2月
所在地	東京都港区芝浦3-1-21 msb Tamachi 田町ステーションタワーS 21F
株主	株式会社マネーフォワード(100%)
事業内容	情シス向けのSaaS/デバイス管理サービス マネーフォワードAdminaの開発・提供

役員紹介

CEO
今井 義人

2009年: Apple Japan
2012年: ミイル株式会社(プロダクトマネージャー)
2015年: 株式会社マネーフォワード
　　マネーフォワードクラウド経費 本部長就任
2021年: マネーフォワード i の代表取締役に就任



取締役/CPO
村上 勝俊

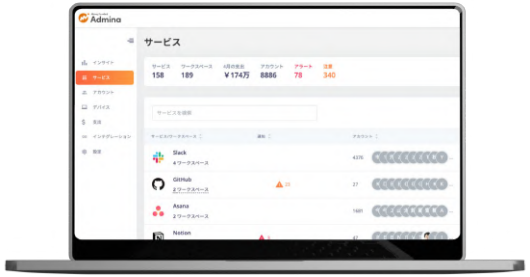
新卒からインフラ開発運用保守、PMを担当
社内開発プラットフ ォームの運用整備やクラウド導入
支援、クラウド利用ポリシーの整備を実施
2019年: 関西開発拠点長に就任し京都へ移住
2020年: 本事業を企画立案
2021年: 社内起業し、マネーフォワード i を創業

取締役
中出 匠哉

2001年: ジュピターショップチャンネル
注文管理・CRMシステムの開発・保守・運用を統括
2007年: シンプレクス株式会社
証券会社向け株式トレーディングシステムの開発・保守・運用に注力。FXディーリングシステムのアーキテクト兼プロダクトマネージャーとして開発を統括
2015年: 株式会社マネーフォワード
Financialシステムの開発に従事。
2016年: CTOに就任

お問い合わせ

Money Forward Admina



Money Forward i

サービス規約

サイトを詳しく見る

コミュニティうちの情シス

bizdev@i.moneyforward.com